

茨城県水産試験場
平成24年度評価書

平成25年7月
茨城県水産試験場
評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価： A 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取組みを実施していると判断できる。

(平成23年度：A)

茨城県の水産業は内水面・海面ともに全国有数であり、水産試験場が果たしている役割は非常に大きい。研究については、学術面での重要性もあるが、漁業者に真に役立つよう、実用化のところまで取組みを進める必要がある。また、漁業の担い手が高齢化する中で、業務の改善、利益の向上、新規就労につながる取組みが県の研究機関に求められている。福島第一原発事故の著しい被害(風評を含む)が発生している中で、研究全般について適切に行われており、計画を達成しているものと評価できる。

研究以外の業務については、放射能対策に加え、本館建替、それに伴う業務の見直しなど、大変な状況の中、着実に業務を推進し、内部人材の育成、モニタリング調査事業、他機関との連携、外部資金の獲得、現場のニーズ把握とそれに基づいた問題解決などは大変高く評価できる。

なお、外部人材の育成については、高校生の水産業への就職施策をコーディネートしたことは評価できるが、自らの業務を推進するため、また、後継者を見つけるためにも、大学生、大学院生の研究指導に挑戦してほしい。

□項目別評価

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究

評価： A

① 休耕田における粗放的魚類増殖手法の開発

佃煮等の主原料になる魚種について、休耕田及び井戸水等を有効活用し、内水面の小規模漁業協同組合でも活用できる簡便な増養殖法の開発に成功した点や開発された技術について関係者に普及を図るために説明した点は高く評価できる。なお、研究成果を普及につなげていくことが大切であり、今後、漁業者や佃煮加工業者とのさらなる連携を図ることが期待される。

② 海況予測情報の発信と精度向上研究

茨城県沿岸の海況について着実にデータを収集し、予測手法の精度を向上させ、漁業者にとって有用な海況予測情報として発信している点は高く評価できる。ただし、水温データというものではなく、実利とつながったデータ(魚種、成果見込み)の含まれたモデルにしないと実用的ではないと思われる。予測精度の向上はもとより漁業者にとって使いやすいものであること、茨城の研究成果が全国の先導的なモデルとなるよう、更なる取組みを期待したい。

③ 水産物の煮熟加工に伴う放射線変動の解明

霞ヶ浦の主要な水産物について、実際の水産加工の工程を想定し、その工程においてどのように放射性セシウムが煮熟液に含まれていくかを定量的に評価を行い、放射性セシウムを減らす方法を開発した点、また、その方法が加工業者にすでに利用されている点は高く評価できる。煮熟なしでセシウムを減らす方法の研究のほか、水産加工業者の負担の増加、価格への転嫁等のマイナスの面についても十分に配慮のうえ普及につなげてほしい。

2) 水産業普及指導業務

評価： A

普及指導の原点は巡回指導であり、少ない人員の中、精力的に巡回指導が行われている点を高く評価する。また、原発事故による風評被害払拭のためのキャンペーン実施に対する支援や茨城県シラス生産者協議会によるシラス生食用凍結品の商標登録を支援するなど、適切に対応している。

3) 漁業無線業務

評価： A

漁船に対しては操業上重要な情報を、また漁船だけでなく、それ以外の船舶に対しても安全性を確保するための情報を発信しており、着実に業務を実施している。

4) 災害時や漁業被害発生時の対応

評価： A

福島第一原発事故以降、安全・安心な水産物の提供、漁業操業の正常化、風評被害の払拭などのために週1回の頻度で県内の魚介類の放射性物質を検査し、そのデータを公表していることや囑託職員をうまく活用して他の業務への影響を最大限抑制していることは高く評価できる。また、漁船との常時通信体制と漁船間通信の常時聴取等災害発生時の対応が強化されている。

5) 研究成果, 調査成果の還元と技術の指導・相談業務など

評価: A

技術講習会の開催, 個別技術相談, 特に加工技術相談については多数の相談に対して迅速な対応が行われており, 着実に業務を実施している。

6) 普及啓発

評価: A

親子で学ぶ水産・海洋教室では, 実習船を活用したり, 缶詰づくりを体験させたりして地道な普及活動を行っており, 着実に業務を実施していると評価できる。

7) 外部人材育成

評価: A

県内外の大学生に講義・研究指導等を行っている点や海洋高校等の教育に協力したり, 地元企業への実習をコーディネートしたことで, 生徒が地元の水産業界に多数就職するなど, 地域の人材育成に貢献している点は高く評価できる。
中長期の研究指導を行った例がないことから, 大学生・大学院生の受け入れを検討するなど, 県の研究業務を担う人材, 後継者となる人材を積極的に受け入れる制度を構築, 運用すべきである。

8) 広報・情報発信

評価: A

情報誌の定期的な関係者への送付やホームページを活用した情報発信が行われており, 着実に業務を実施している。

9) 知的財産の取得・活用など

評価: A

茨城県シラス生産者協議会の設立を支援し, 「生食用シラス製造技術」の秘密保持に適切に対応したことは非常に評価できる。
ただし, 中期運営計画に研究成果の特許出願が位置づけられていることから, 引き続き目標達成のために積極的に取り組む必要がある。

ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策

1) 全体マネジメント

評価: A

組織再編, 本館建替, 放射線対応等, 多忙の中, 本来の主要業務をおろそかにせず, むしろ活発化させていることや各部の連絡等が密にとられており, 情報の共有化が組織的に行われている点など, すぐれたマネジメントがされていると評価できる。

2) 他機関との連携

評価: A

大学等と9件もの共同研究を実施していることや, 関係機関による各種会議の参画等, 他の機関, 経営資源を有効に活用しており, 大変評価できる。

3) 外部資金の獲得方針

評価: A

限られた人員で積極的に外部資金の獲得に努力している。研究課題は昨年度の5課題から9課題に増えており, 大変評価できるが, 分担者ではなく, 代表者としての研究テーマを増やしてほしい。

4) 県民ニーズの把握方策

評価: A

県民ニーズについては, 直接漁業者からの聞き取りや関係会議の出席など, 適切な把握が行われているとともに, 原発事故への対応などについても研究課題の設定につなげており, 単なるニーズの把握にとどまっていない点やモニタリング調査事業の長期化を予測して体制を整備した点は評価できる。漁獲物の安全性の確認, 公表, 放射性低減技術の開発等についても, よく取り組んでいる。

5) 内部人材育成

評価: A

学会への参加・発表を推奨し, 活発化させたこと, 大学との共同研究の増加や研修への積極的な参加, 定期ゼミの開催は, 研究のレベルアップの取組みや人材育成のマネジメントとして高く評価できる。また, 職員の意欲・志気も高い。
一方, 業務が増加する中で研究員数が減少傾向にあるため, 研究員には多大な負担となりかねない。これ以上の研究のレベルアップを求める場合には, 学会発表や学術論文の公表がしやすい環境のさらなる整備, 外部人材(ポスドク)の雇用など, 研究員が研究へのモチベーションを保つ仕組みを構築することが必要と思われる。

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
i) 県民に対して提供する業務		<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>1 休耕田における粗放的魚類増殖手法の開発 (1)粗放的魚類増殖手法の開発 ①採卵方法の比較試験 ・ギンブナは人工採卵が、モツゴは天然採卵が、ドジョウは親魚を休耕田に放流しての自然採卵が、増殖方法として適している ②簡便な魚類増殖手法の開発 ・水深は40cm以上深く保つことや休耕田の状況に応じた最低限の地形加工が必要、さらに取り揚げ時に、効率的に生産物を回収するためには、除草や水落ちをよくする工夫が必要 (2)漁協等への普及活動の実施 ・休耕田での生産結果を、内水面漁場管理委員会や漁協役員会議等での発表や普及を目的に、漁協に説明を実施 ・本受託事業の成果品として、水産庁が報告書及びパンフレットを作成、今後の漁協説明等において使用予定</p> <p>移植放流に替わる資源維持方法として、休耕田を用いた魚類の増殖技術を開発</p>		○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
	A	<p>2 海況予測情報の発信と精度向上研究 (1)海況の現況と予測情報の発信 ・調査船による海洋観測を毎月1回実施し、結果を場内の定例ゼミ(毎月)にて発表 ・(独)水研センター、東北各県水試と連携して東北海域の海況情報を共有し、周辺海域を含めて海況情報を随時とりまとめ ・海況の現況および予測結果を「水産の窓」(1回/月)と沿岸資源談話会において報告 (2)茨城県沖の海況と周辺海況の関係解明による予測手法の改良 ①予測結果の検証 ・本県海域においては自己回帰モデルの予測精度が最も優れているとの検証結果が得られ、東北ブロック水産海洋連絡会議にて研究発表 ②海況予測精度の向上研究 ・本県沖の流れの特徴として、南部沖合では北もしくは北東への流れが卓越、それ以外の海域では、概ね南向きの流れが卓越する傾向が顕著であることを解明</p> <p>この研究成果は、水試担当者が海況予報を作成する際の根拠の一つに用いており、海況予報は、県内漁業者の日々の操業に活用</p>	A	
		<p>3 水産物の煮熟加工に伴う放射線変動の解明 (1)フカサギ及びシラウオの煮熟加工による放射線量の変化 ・3%食塩水の煮熟により、放射性セシウムは、フカサギ△78.1%(33.3→7.3Bq/kg)、シラウオ△79.2%(39.0→8.1Bq/kg)低減 ・同じ煮熟液で煮熟を繰り返すことにより、煮熟液及び釜揚げに含まれる放射性セシウムは増加 ・煮熟液を交換することにより、釜揚げに含まれる放射性セシウムを低減 (2)テナガエビの煮熟加工による放射線量の変化 ・3%食塩水の煮熟の低減効果は、△28.6%(48.6→34.7Bq/kg)と低かったが、真水による煮熟では△50.0%(48.6→24.3Bq/kg)と高く、真水による煮熟によって、放射性セシウムが原料の約半分に低減</p>		
2)水産業普及指導業務	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)巡回指導の実施 ・水産業普及指導員による営漁指導のほか関係機関等との連絡調整、各種情報提供等支援を実施(巡回指導日数:延べ407日/年) (2)活動支援・会議等への参加指導 ・風評被害払拭キャンペーン(11~3月に4店舗で延べ5回実施)への支援 ・東日本大震災及び原発事故対応に関する国の支援等について、漁業者や漁業協同組合等に情報提供 (3)プロジェクトチームによるシラス生食用凍結品支援 ・水産試験場が開発した「シラス生食用凍結品」を関係4漁協で組織化した「茨城県生シラス生産者協議会」によって「海の輝き」として商標登録 ・「全国都道府県特産物フェア2012」に出展し、販路拡大を行った結果、90社以上から商談(成約数12社、売上400万円)</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

水産試験場

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
3) 漁業無線業務 i) 県民に対して提供する業務	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成 漁船・レジャー船の人命・財産の保全のための通信 ①定時放送 ・気象情報・航行警報の毎日定時放送を計画どおり14回行い、より多くの漁船に情報を周知 ②輻輳海域の通信 ・漁船等の安全確保のため、常陸那珂港へ入出港する船舶の入出港時刻の情報を聴取し、周知 ③気象情報 ・漁船の安全な操業確保のため急変する気象情報を迅速に周知 ④操業情報 ・漁場位置、魚種別漁獲量などの操業情報収集、漁海況予測に必要な海水温データ等を収集(年131日操業、1日約100通)	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
4) 災害時や漁業被害発生時の対応	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成 (1)漁業無線局による所属船の緊急事態への対応 ①漁船との常時通信体制と漁船間通信の常時聴取 ・所属船との間で常時通信が行える体制と漁船間通信を常時聴取する体制を整備 ・遭難緊急周波数や通常の連絡周波数を使用して、県外の漁業無線局及び県内の各漁協の無線局との間で受信感度試験を実施 ②港湾への船舶の出入港情報の聴取 ・輻輳海域である港湾への船舶の出入港情報を聴取、漁船に周知 (2)水産業改良普及員の対応 ・東日本大震災・津波及び原子力発電所事故対応に関する対策・要望等のニーズ調査に努め、漁業者や漁業協同組合等に対し必要とする情報を伝達 (3)水産物安全モニタリング調査の実施 ・福島第一原発事故に伴う水産物安全確認モニタリング調査 (4)風評被害対応 (5)酸欠情報、貝毒、大型クラゲ対策 ①霞ヶ浦北浦酸素情報:7~9月(13週)に14回発行 ②貝毒発生モニタリング調査 ・規制値を越える麻痺性貝毒、下痢性貝毒が検出されたムラサキイガイについて、1回/週検査検体を検査機関に送付 ③大型クラゲ来遊状況調査 ・9月~1月に8回実施(大型クラゲに関する情報を漁協に提供) ④その他 ・魚類の斃死原因究明の相談への対応 (6)特定疾病発生などへの対応 ①特定疾病 ・持続的養殖生産確保法で特定疾病に指定されているコイヘルペスウイルス病は1件発生し、現地指導 ②被害漁場環境調査事業 ・東日本大震災後の磯根漁場と二枚貝漁場の漁場環境状況の変化を把握するため調査を実施	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
5) 研究成果、調査成果の還元と技術の指導・相談業務など	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成 (1)技術講習会の開催 ①沿岸資源談話会 ・沿岸漁業者を対象に、2月県北、県央、県南の3地区で開催、研究成果や春季の漁海況予報を説明 ②加工技術講習会 ・霞ヶ浦北浦水産加工業組合の理事会等でワカサギ、シラウオ加工段階における放射能低減技術について説明(6月1回、3月2回) ③その他 ・海面の漁協担当者を対象に「放射性物質検査担当者会議」を開催(7/18)、放射性物質の生態系での挙動や検査結果を報告 (2)個別技術相談 ①経営相談・担い手育成相談 ・普及員による巡回指導:延べ407日 ・沿岸漁業者からの様々な技術や経営に関する相談、対応 ・本県や他県の水産試験場、国の研究機関、大学等の最新技術、情報について伝達、研究開発の参考となるニーズ把握 ②加工技術相談 ・加工業者から異物混入案件など71件の相談、回答 ③特産品開発支援:実績なし ④衛生管理と検査・分析 ・分析冷凍生シラス製品細菌数検査依頼:72検体 ⑤魚病・天然水域での魚類斃死事故への対応 ・魚病相談:5件、斃死事故対応:2件 ⑥マスコミ・県民からの相談・取材など:12件 (3)漁業者、加工業者が集う各種会議での研究成果報告実績 ①本場:9件 ・7/7 鹿島灘3漁協漁業研究会 1/19セリ人会、10/31湊回船誘致協議会など ②内水面支場:6件 ・6/5酒沼ンジミ報告会、11/28霞ヶ浦北浦水産振興協議会など	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
6)普及啓発 i) 県民に対して提供する業務	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)視察者や一般見学者の随時受け入れ ・県民の日(11/13)に本館施設一般公開 ・本館1階展示スペースにパネルや調査船模型、操業風景をビデオで紹介する施設を整備 ・本県奉職希望の東京海洋大学学生1名の見学を受入 (2)イベントへの参加 ・ひたちなか市が開催するイベントに参加し、水産試験場の業務、研究の成果や本県水産業、栽培漁業について普及啓発 ・茨城町主催の「酒沼しじみフェスタ」に参加し、ヤマトシジミの生態やシジミ漁業、種苗生産の取組について展示 ・大酒沼漁協主催のシジミ種苗放流会に参加し、地元小学生等へヤマトシジミの生態などを説明 (3)漁業後継者育成事業による普及啓発 ・「親子で学ぶ水産・海洋教室」を3回(7月)を開催(児童・生徒とその保護者(62組・130名)対象に実習船乗船等) ・アクアワールド大洗水族館と共催で、「かまぼこづくり教室」を1月に開催 (4)その他の対応 ・茨城県筑波地区試験研究機関意見交換会(9/21)の視察見学 ・霞ヶ浦北浦漁業調整委員会(12/19)の視察見学 ・県立試験研究機関成果発表パネル展示会(9月)に出展、研究成果等を一般県民にPR</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
7)外部人材育成	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)水産試験場職員による講師 ①高校等への出前授業 ・海洋高校海洋食品科生徒30名を対象に「ヒラメの生態と栽培漁業等」について出前授業を実施 ②漁業士認定講座 ・漁業士育成するための講座を4回開催(青年漁業士12名、女性漁業士5名を認定(H24)) ③親子で学ぶ水産・海洋教室の開催 ④海洋高校との連携による漁業・水産業担い手育成プロジェクト ・海洋高校2年生(海洋技術科29名、海洋工学科32名、海洋食品科38名)を対象に定置網や旋網等での漁業実習や水産加工会社での企業実習を実施 (H24年度水産業就労実績:旋網7名、定置網1名、県内水産加工業8名) (2)大学等と連携した漁業・水産業の理解促進と人材育成 ・海外研修生(海外漁業協力財団)受入:タンザニア、ツバル、インドネシア、サントメ・プリンシペ各1名 (3)学生への講義・指導 ・筑波大学新入生、大学院生の環境科学実習講義 ・茨城大学、東京大学大学院生への霞ヶ浦の魚類の生態等講義 ・上海海洋大学教授等の受入等 ・東京海洋大学学生合計2名への研究指導、海洋高校PTA研修会の講師</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成 【附帯意見】 学生・大学院生の受け入れを検討するなど、県の研究業務を担う人材、後継者となる人材を積極的に受け入れる制度を構築、運用すべき
8)広報・情報発信	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)情報誌の発行・送付 ・「漁海況速報」、「人工衛星速報」の毎週発行 ・「水産の窓」の毎週発行、水産関係団体、マスコミ(地方紙)送付 (2)その他の情報の発行・広報 ・「岩手県～千葉県の100m深水温図」、「シラス水揚げ速報」、「シラスやコウナゴの分布情報」、「内水面支場ニュース」、「ワカサギ漁期前調査結果報告」、「アユの遡上情報」などをホームページで公表 ※ホームページへのアクセス件数:184,631件 ・研究成果報告書とりまとめや学会、水研等開催の各種会議で発表 ・大学生高校生研究者による霞ヶ浦流域研究2013(茨城大学)や第5回水産海洋プラットフォーム・フォーラム(東京海洋大学)に参加、口頭やポスターで発表 ③新聞等マスコミを介した情報発信・取材対応 ・水産試験場名が紙上に掲載された表題:22件 ・漁海況速報の提供:茨城新聞・常陽新聞に1回/週 ・定置水温:栽培技術センターでの測定日毎日</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
9)知的財産の取得・活用など	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)事例収集 ・先進県調査(愛知県)において、知財取得につながる研究分野が少なく限定されるため、実績が少ないことを聞き取り ・他県事例も調査し、特許の出願を検討 (2)「生食用シラス製造技術」の秘密保持に対する対応 ・誓約書提出による製造技術の他産地への漏洩防止 ・県外民間業者からの技術公開要望に対しては非公開とし、技術の内容を保持 ・県生シラス生産者協議会による「海の輝き」商標登録、ブランド化</p>	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

水産試験場

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
ii)業務の質的向上・効率化のために実施する方策	1)全体マネジメント	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)水試業務全体のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本場部長等及び漁業無線局職員の定例部長会を1回/週開催 ・内水面支場長、部長を加えた月例会を1回/月開催 ・週1ミーティングを活用し、各部員への部長会での連絡事項や各部業務の進捗状況など情報の共有化 ・調査船運航の水産物安全確認モニタリング調査等随時打合せ ・水産試験場組織の改正、新たな要覧の作成等について、各種場内委員会において協議、実施 ・約4万冊の蔵書を機関別、種類別に整理・収納 <p>(2)研究活動のマネジメント</p> <p>①研究等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間研究計画検討会、中間検討会、内部評価委員会、研究成果報告会について、計画通り実施 ・内部評価委員会では、H23年度完了3課題、中間1課題について、完了評価及び中間評価を実施 ・中間評価課題については、継続実施を採択 <p>②本庁主管課との密な連絡による新たな課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特電事業の次年度ヒヤリング時や予算要求前に、本庁主管課と密な連絡をとり、課題を設定 <p>③業務に必要な職場研修の実施</p> <p>(3)プロジェクトチームによるシラス生食用凍結品への支援(再掲)</p> <p>(4)県民ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業に係わる委員会出席、新たなニーズの把握 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
	2)他機関との連携	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)共同研究・連携の推進(H24新規課題)</p> <p>①霞ヶ浦におけるアメリカナマズの在来魚種に及ぼす影響に関する共同研究(東京海洋大)</p> <p>②霞ヶ浦におけるワカサギの資源変動要因の把握と資源変動のモデリングに関する共同研究(東京海洋大)</p> <p>③霞ヶ浦由来のプロバイオティクス乳酸菌等を用いたコイ養殖技術に関する共同研究(筑波大学)</p> <p>④海藻着床具を用いたアラム藻場再生技術の開発に関する共同研究(東京海洋大)</p> <p>(2)水研・他県水産研究機関との情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北ブロック場長等連絡会議等、全国水産関係の研究者や行政担当者が集う会議に出席し、情報交換 ・得られた情報は研究活動や震災・放射性物質検査業務等に活用 <p>(3)平成24年度実施中の共同研究課題の効率的推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・水研との連携強化による要望の高い新たな研究への取組み ・東京大学と連携し、貝殻の断面に記録された輪紋数によるハマグリの子年輪判定手法の開発 ・水研センターとの共同受託により被害漁場環境調査 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
	3)外部資金の獲得方針	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>新たな課題設定のための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画に予定した9課題のうち、「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル実証事業」と「アメリカナマズ抑制管理技術開発事業」を除く、7課題を設定 ・「沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル実証事業」について、事業予定の日立市久慈地区で関係者と事前打ち合わせを実施 ・「アメリカナマズ抑制管理技術開発事業」は国事業終了のため県単独事業により実施 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成
	4)県民ニーズの把握方策	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>(1)研究ニーズの把握と研究課題の設定</p> <p>①研究ニーズを把握するための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業普及指導員が、直接、漁業関係者と接触し、現場のニーズを把握、迅速に対応 ・茨城県旋網漁協等の漁業団体や、商工会議所が主催する会合に出席し、ニーズを把握(会議参加数:108件) <p>②研究課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部3漁協からシラス船曳網漁業の試験操業への支援要請に対応し、漁獲物の安全性を確認し、公表 ・霞ヶ浦北浦における加工品製造工程における放射能低減技術を開発(出荷解禁後のワカサギ加工品製造・販売に貢献) <p>③ホシザメ胃内容物調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城海区漁業調整委員会からの要請によるホシザメによるヒラメ幼稚魚への食害調査 <p>④放射能検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物安全確認モニタリング調査事業継続や水産加工品等の放射性物質軽減対策研究(ワカサギ、テナガエビ、アメリカナマズ) <p>⑤水産多面的機能発揮対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿海地区漁協からの要望を受け、藻場の保全、漁村文化の継承等の支援を計画 <p>(2)漁業者からの漁況予測情報等の要望への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラスなどの漁場探索要望、まき網船等の入出港状況や沿岸漁船の過去の水揚げ情報提供など、業界からの問合せに迅速に対応 	A	○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成

【様式7】整理表(項目別評価)

水産試験場

評価項目(年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
5)内部人材育成 ii)業務の質的向上・効率化のために実施する方策	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>研究員の能力向上による研究のレベルアップと職員の職務能力と資質の向上を目標に次の取組みを実施</p> <p>1. 研究のレベルアップのための取組</p> <p>(1)研究の計画, 取りまとめ, 発表能力の養成</p> <p>①場内定例ゼミの開催</p> <p>・年度の計画ゼミ, 中間ゼミ, 成果ゼミ及び毎月の海洋観測</p> <p>(2)新たな研究手法の導入や新たな研究テーマの設定</p> <p>①学会への参加・発表の推奨</p> <p>・日本水産学会への参加: 延べ9人</p> <p>・学会発表課題数: 16</p> <p>②独法の研修制度の利用</p> <p>・海況解析技術に係わる研修会: (独)水産総合研究センター東北区水研</p> <p>・魚病症例研究会: (独)水産総合研究センター増養殖研など</p> <p>③大学等との共同研究・連携の利用</p> <p>・共同研究実施数: 9課題</p> <p>・連携課題: 1課題</p> <p>④ピンターゼミの開催 実績4回</p> <p>・東大渡部教授(海洋生態系における放射性物質の挙動)</p> <p>・水試OBによるゼミ(昭和40~50年代の沿岸漁業に関する二三の回顧)</p> <p>⑤他県水産関係機関との情報交換会</p> <p>2. 職員の職務能力の向上, 資質の向上のための取組み</p> <p>(1)各種研修会の参加</p> <p>①財務研修, 出納員研修会, 入札事務研修会等</p> <p>②養殖衛生管理技術者研修会</p> <p>(2)その他</p> <p>まき網漁船への乗船研修, 潜水土資格取得</p>	A	<p>○質・量の両面において概ね平成24年度計画を達成</p> <p>【附帯意見】</p> <p>学会発表や学術論文の公表がしやすい環境のさらなる整備, 外部人材(ポスドク)の雇用など, 研究員が研究へのモチベーションを保つ仕組みを構築することが必要</p>